

ドラマ「ハケンの品格」を利用した日本語の授業

梁 正 善

Japanese soap opera(a.k.a. Drama) as a learning tool

YANG Jeongsun

Abstract

Utilizing Japanese soap opera (a.k.a. Drama) as a learning tool for people who are trying to learn Japanese language has a great advantage. Many expressions and dialogs that are used in conversations in a show address different meanings and contexts (Specific situations, Character's personality, Relationship between people, subjects of their conversation, etc) that are common to Japanese people but are not common to foreigners. By watching and hearing conversations that are spoken between the characters could increase learner's vocabularies, understating of Japanese cultures, and different expressions that are common to Japanese people.

1. はじめに

本稿では、日本語上級者（25名）の学生を対象にドラマ「ハケンの品格」を利用した日本語の授業の紹介を行う。ドラマでの登場人物の自然な会話、状況による言葉の遣い方、敬語の使い方、日本の会社システムへの理解、日本文化の理解をも同時に目指した。

ドラマの日本語は、日本語を第二言語や外国語として学ぶ人々にとっての学習用素材としても利用され得る。日本語教材にもドラマ仕立てのものがいくつもある。ドラマの教材には、三つの利点があると考えられる。

まず、特定の表現の意味や用法を文脈（場面状況、話者の属性、相手との人間関係、話題、など）と共に効果的に提示できるということがある。また、内容的にもストーリーへの興味から学習者の関心をつなぎやすい。そして、もうひとつ、さまざまな属性をもつ日本人が、さまざまな状況においてどのようなコミュニケーションをおこなっているか、という例を示せるということであろう。海外で日本語を学ぶ学習者はもちろんのことだが、日本に住んでいても、学習者本人が毎日の生活で関わる日本人の範囲は、案外限られていることが多い。実生活ではあまり遭遇する機会のないタイプの日本人の行動や、見聞きすることのない場面など、ドラマには興味深いコミュニケーションの例が数多く見られるはずであり、その意味でドラマの存在は貴重である。

2. 「ハケンの品格」分析と考察

筆者は日本語上級の教材の一つとしてドラマ「ハケンの品格」を使用した。それは「ハケンの品格」は、今の「格差社会」をリアルに反映「給料は時給制でボーナスなし」「交通費は原則自己負担」「3ヶ月ごとに雇用契約の見直し」という厳しい労働環境で働く派遣社員・大前春子が主人公で、社内での言い回し、日本の文化、社会的な説明などの言語的な要素、非言語的な要素、文化的な要素が含まれ

ていたため教材として取り入れた。

2. 1. 対象学生

日本語上級 B を履修する 24 名の留学生（アメリカ人の留学生 2 名、イギリス人の留学生 2 名、韓国人の留学生 1 名、台湾人の留学生 5 名、中国人の留学生 14 名）である。日本語の経歴は 1 年～8 年で日本語のレベルのばらつきは多かった。

2. 2. 利用例

2007 年 1 月 10 日から 3 月 14 日まで放送された視聴率 20% を上回った「ハケンの品格¹⁾」を用いて具体的に述べることにする。

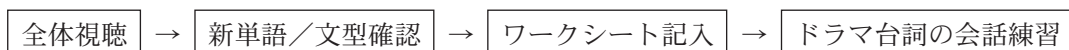
2007 年製作 / プロデューサー：樫山裕子 内山雅博

出演：篠原涼子 / 加藤あい / 小泉孝太郎 / 大泉洋 脚本：中園ミホ

あらすじ

派遣社員として特 A ランクの評価を受ける大前春子（篠原涼子）が 3 ヶ月契約で、丸ノ内にある食品会社『S&F』の営業事業部マーケティング課に雇われる。社内の人間関係に追われつつも、与えられたノルマを淡々とこなし、相手構わず言いたいことを言う。契約した事以外はしないため、配属部署以外の部署の業務の手伝いなどは一切せず、たとえ役職者であっても直属の上司でなければ命令には従わない。休日出勤もしない。残業も一切しない。そんな彼女に周囲は振り回されつつも、徐々に認め始める。

2. 3. 授業の進め方



- 1) Chapter ごとにまずは台詞なしに 2 回を聴き、3 回目に台詞を配り聴きなおす。(約 20 分～30 分)
- 2) 字幕なしの DVD でこれから学ぶ場面をみせる (2 回繰り返し、約 20 分程度)
- 3) シーンの台詞を配布。(両面コピー 4 枚程度、1 分)
- 4) 台詞の聴き取り作業に入る。(3 回)
- 5) 新単語を学習²⁾。(単語の解説や類似表現などを文章で学び、使われた単語の台詞を確認、約 15 分)
- 6) 学生同士で台詞の練習 (約 15 分)
- 7) 翌週単語テスト (前回配られた新単語 約 5 分)

日本語上級クラスは、日本語学習の経歴は 1 年～8 年で日本語のレベルには幅があった。日本語を専攻する学習者もいれば英語が専攻で日本語は副専攻の学習者もいた。また、既に日本語能力検定試験 1 級に合格している学習者もいればまだ 2 級の資格ももってない学習者もいた。とくに、欧米系の学習者にとって漢字は難問であり毎回配られる台詞の読み方や意味を説くのに時間がかかった。その補充として毎回新聞の記事の録音、商品名の説明、ことわざ、慣用表現などを課題で課した。しか

し、アンケート結果によると商品名の説明はあまり役に立たなかったという欧米系の留学生からの声もあった。

3. ドラマを教材とすることで期待する効果

水原（1999）では、演劇とドラマ、そして映画との台詞の特徴が比較をされている。それによると、演劇の場合、実験的な芝居、商業演劇を問わず、台詞は長いのが特徴である。それに比べると、テレビドラマの台詞は短くなる。また、テレビドラマの場合はストーリーの裏側に常に日常性が要求され、「一見どんなに荒唐無稽な物語でも、視聴者の身近で起こり得る話という前提がある」としてある。そして、演劇や映画と比べて、「台詞の内容、長さ、言葉のリズム、その背景、どれから見ても、我々の日常生活に最も近いところで作られているのはテレビドラマである」と述べている。ドラマには毎日の暮らしや人生の一コマが描かれている。その意味では、ドラマにあらわれる場面や言語行動のバリエーションは、日常にずっと近いもの、という見方もできる。「電話のやり方」「会議」「同僚を励ます」などドラマを教材とするメリットとしては、学習意欲が向上する、会話が自然である、発音がわかりやすい、異文化を理解させる上で効用があるなどの点があげられる。(アンケート用紙1の(2)を参照)

3. 1. 異文化理解

日本語を第二言語や外国語として学ぶ人々にとって毎日の生活で関わる日本語の範囲は、案外限られていることが多い。実生活ではあまり遭遇する機会のないタイプの日本人の行動や、思考方式、見聞きすることのない場面でのコミュニケーション、現代日本の様々な社会現象や傾向・変化を敏感に反映して異文化を理解する第一歩でごく自然に受け入れさせるメディアである。

ラドック（2002）は、文化に特有の事項、言語外の意味なども観察する機会が与えられる。特に、ドラマについては、その内容が実際のコミュニケーションと関連した文化知識の一つでもあって、学習者は自分自身の日常生活の社交パターンと照らし合わせることができるので、文化紹介のビデオなどより効果的だとしている。実際授業で使われた会話を具体的に見ながら説明する。

● 派遣会社へ登録

一ツ木：派遣のお仕事は 初めてですか？

美 雪：あ はい。

一ツ木：そういう方 ^{だいかんげい} 大歓迎です。

^{はけん} 派遣というのは ^{はけんかいしゃ} うちのような ^{とうろく} 派遣会社に登録して

^{きぎょう} いろんな企業に出向いて ^{はたら} 働くスタッフのことです。

^{きゅうりょう} お給料は時給で ^{じきゅう} 我々 ^{われわれ} ^{はけんかいしゃ} 派遣会社が ^{しはら} 支払います。

美 雪：はい。

一ツ木：まずは ^{いっばんじょうしき} 登録していただくために

^{いっばんじょうしき} 一般常識のテストと ^{パソコン} パソコンのスキルをチェックしましょう。

美 雪：あ、あの。

一ツ木：大丈夫ですよ。ほんと簡単なテストですから。

^{もう} 申し遅れました。私 ^{おく} ^{ひとり} マネージャーの ^{つぎ} 一ツ木と ^{もう} 申します。

上記の会話は、初めて派遣会社に登録をする美雪に派遣会社の説明をする一ツ木さんとの会話である。美雪と初対面である一ツ木さんが自己紹介と名刺を渡す場面は職場の場面設定であり日本語学習者にとっては遭遇することも少ない状況を映像で、登場人物の会話を通じて言い回しを身につけることができる。

<p>● 食堂での会話</p> <p>客<small>きやく</small>：ごちそうさま。</p> <p>店員<small>てん いん</small>：ありがとうございます。</p> <p>いらっしゃい！</p> <p>相席<small>あいせき</small>お願いします。</p> <p>小笠原<small>おがさわら</small>：どうも。</p> <p>お うまそうだなあ 私<small>わたし</small>も サバ味噌<small>みそ</small>にしますよ。</p> <p>店員<small>てん いん</small>：玄米<small>げんまい</small>にしますか？ 白米<small>はくまい</small>にしますか。</p> <p>白<small>しろ</small>いご飯<small>はん</small></p> <p>店員<small>てん いん</small>：はい。お待ち。</p>	<p>● 文化的要素</p> <p>食堂、相席、メニュー (サバ味噌)、ご飯の種類。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------

日本語学習者は限られた範囲で生活している。食堂でのメニューの注文や他人との相席などは日本の文化を理解する上にかなり役に立ち、また学習者がそういう場面と遭遇した場合言い回しを使うことができる。

<p>● 会社での餅つき</p> <p>(一同) おめでとうございます。</p> <p>(社員達) よいしょ～！ よいしょ～！</p> <p>里中賢介<small>さとなかけんすけ</small>：よっ。</p> <p>桐島敏郎<small>きりしまとしろう</small>：おい！もっと腰入れろ 腰を！(本気で物事に取り組む)</p> <p>里中：すいません。部長の手 ついちゃいそう。</p> <p>東海林 武<small>しょうじ たけし</small>：あ～あ～ そんなじゃ お前 餅食<small>もちく</small>う前に 正月<small>しょうがつ</small>空けちまうぜ！(しまうーちまう(砕けた表現) しっかりしろ～！</p>	<p>● 文化的要素</p> <p>年明けの挨拶、餅つき、</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------

会社でのお正月を迎え餅つきの描写は、伝統的な日本文化の紹介としても利用可能であり会社での行事として日本語学習者に興味をもたらせる文化のシーンである。

<p>● お茶汲み</p> <p>さとなか 里中：プレゼンは <small>こんど すいようび</small> 今度の水曜日です。</p> <p>まずは リサーチですけれども あれ？ <small>おおまえ</small> 大前さん？</p> <p>さとなか 里中：気が利きますね。すみません。</p> <p>はるこ ひるや まえ しゅにん たの 春子：昼休み前に 主任に頼られました。</p> <p>里中：ああ そうでしたね。</p> <p>小笠原：おお これは どうも</p> <p>美雪：あ すみません。 <small>わたし ぶん</small> 私の分まで。</p> <p>里中：あの <small>ちや ば</small> お茶っ葉 変えました。</p> <p>大前：いえ <small>きゅうとうしつ</small> 給湯室にあった いつものですが <small>なに</small> 何か？</p> <p>里中：すごく うまいです。</p>	<p>● 文化的要素</p> <p>お茶汲み、給湯室</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------

上記の会話は主人公大前春子が昼休み前に里中主任に頼まれお茶を入れるシーンである。お茶葉やお茶をいれる順番などが映像を通して見て取れる。また、日本の会社ではお茶をよく飲むことも察しすることができる。

日本語では言葉の語義の背後に相手との人間関係が大いに影響しており、この関係の如何により言葉の使い分けがなされている。このことを上級レベルの日本語学習者は理解し、自分が築いている人間関係を確認して言語行動を行う必要がある。上で取り上げた個々の事例はテレビドラマの会話の中で具体的に示されている。日本語学習者が人間関係を円滑にし、日本の社会に入っていくためには、少しでも多くの事例に遭遇し、学んでいくことで疑似体験を学習することもできる。ドラマの日本語を通して言葉の使い分けや年代による言葉の使い方など日常生活に最も近いところで学ぶことができる。

3. 2. 語彙能力

毎回新語を台詞から引き抜き、語彙覧では解説と文法の説明を記した。翌週には前回の単語テストを行い語彙力を図った。ちなみに、副教材としてNHK国際ニュース新聞記事を配布した。しかし、語彙能力がどれほど伸びていたかは確認できなかったが、日本語能力検定試験1級に合格した学習者が増えていた。

3. 3. 敬語

今回、授業のアンケートの中で役に立ったと思われる項目に敬語の使い方が取り上げられた。敬語は人間関係が著しく組み込まれているものである。敬語は年齢、社会的地位などの上下関係とそれに加えて、場面性も関与している。日本語学習者の到達目標の中で敬語が上手に使えるようになりたいという希望が最も多い。つまり、敬語の形態を完全に習得する上に相手との関係や状況を十分に察知して使いこなしたいということである。

敬語を含めて、相手との人間関係や心配りが大いに関与している日本語を使えるようになり、日本社会で円滑な人間関係を築いていくのが上級レベルの日本語学習者の目標でもある。しかし、実際日

本語の現場で体験し学ぶにはかなり時間を要する。言語活動をテレビドラマの台詞を通して様々な属性を持つ日本人が自分のおかれた状況や相手との人間関係の中で、どのようなコミュニケーションを行っているかということが具体的に示されている。

下記の会話は、派遣社員である森美雪がコーヒーサーバーを壊したため代わりに、派遣先の「ハケンライフ」の上司である一ツ木さんがお詫びをしているシーンで上下関係があり、個人的にそれほど親しくない相手に対して、お詫びや挨拶のお礼の印に贈り物をする場合である。

一ツ木：これ つまらないものなんですけど どうぞ お納めください。
うちの森が 大切なコーヒーサーバーを壊してしまったそうで・・・
お詫びに上がりました。

3. 4. 自然な会話

テレビドラマの言葉と日常の言葉の一般論として小矢野（1996）は、テレビと若者言葉の関係について、テレビ発信型とテレビ経由型がある、と言う。テレビ発信型は、例えば「～とか・・・」「～みたいな・・・」は、テレビのトーク番組などで頻繁に聞かれ、それが若者の対話教即本のように機能して日常生活にも使われるようになるものである。テレビ経由型は、一部の女子高校生の間で使われる「コギャル語」がテレビなどで取り上げられ、それが広い場面で広まる場合で、例えとして、「チョベリバ」をあげている。

小矢野（1996）は、テレビを通しての言語経験が、「素材としての単語やフレーズとしてではなく、場面性、対人生、伝達内容、モダリティなどを総合したコミュニケーションに接することで」「そこから若者が、多くは反復的な接触によって無意識のうちに学び、身につけるのであろう」（p.44）述べている。

●入社同時を思い起こすシーン

東海林：結局 あの派遣 ^{はけん} ^や 辞めさせないのか。
アマママだな ^{けん} 賢ちゃんも。

里 中：そうだね。

東海林：俺達 ^{おれたち} が新入社員 ^{しんにゆういん} だった ^{とき} 時さ
電話 ^{でんわ} の取り方 ^と から ^{かた} 教 ^{おし} えてくれた
業務 ^{ぎょうむ} のおばちゃん ^と とか
残業 ^{ざんぎょう} のたび ^に おでん
おご ^{おご} ってくれて ^{かわさきしゅにん} 川崎主任。
覚 ^{おぼ} えてる？

里 中：うん。

みんな どうしてるかな。

3. 5. ヒヤリング

最初は字幕なしで2回ずつ映像を流し、3回目に台詞のプリントを配布し下の会話の中に書かせた。

主人公大前春子と里中主任の発音は丁寧語「です」「ます」体を使っていた為、台詞は聴き取りやすかった。が、東海林主任の発音は早口言葉で俗語が多かった為聴き取りにくかった。その補足でルビをつけて台詞を配布した。配布資料全文スクリプト因みに、聴解能力を向上させるためNHKオンラインニュースを映像と共に記事の内容も文章化し配布した。

● (携帯電話の着信音)

春 子：はい。

ツ ネ：もしもし 春ちゃんか？

春 子：ツネさん？

ツ ネ：^{だいじ}大事な現場に ^{げんば}穴あけちまったよ。
俺も年だし もう①潮時^{しおどき}だな…。

春 子：ツネさん…。

東海林：^{まこと}誠に^{もう}申し^{わけ}訳ございません。

^{ほんじつ}本日の^{かいたい}解体ショーは

1) [REDACTED]

客：え～ ！？ 何でよ～！

東海林：申し訳ございません！。

申し訳ございません！

浅野・美雪：申し訳ありません！

小笠原：^{みなさま}どうも皆様 ^{もう}申し^{わけ}訳ございません！

桐 島：本当に申し訳ない。

^{せきにん}この責任は ^{すべて}すべて

2) [REDACTED]

緑 川：とにかく…

この場を どう②乗^のり切^きったらいいか 考えてくださいよ！

本部長…。

本部長：桐島さん これは 一体どういうことだね？

桐 島：本部長 このは うちが ホントに申し訳ない。

東海林：3) [REDACTED]

緑 川：申し訳ございません！

東海林：申し訳ありません。

(知らせのチャイム)

(アナウンス)

4) [REDACTED]

これより ^ち地下 ^か食 ^{しよくり}料 ^う品 ^ば売り場

^{とくせつ}特設ステージにて

マグロの^{かいたい}解体ショーを

5) [REDACTED]

4. アンケートのまとめ

ドラマ「ハケンの品格」を用いた授業のアンケートを最後に実施した。(設問内容と詳しい結果は注にしておく)

4. 1. 授業の評価

まずドラマ「ハケンの品格」を用いたことに関しては20名中15名が「とってもよかった」5名が「よかった」と答えた。学習者が教材としてドラマをもイいることを肯定的に評価したことになる。また、授業を受けて日本語能力は伸びたのかの質問に「伸びた」14名、「伸びてない」2名、「どちらともいえない」1名、「分からない」1名と答えた。「どちらともいえない」、「分からない」と答えた学習者は短い短期間4ヶ月で伸びたのか本人も分からないということであった。

4. 2. 効果について

この授業で役に立った点では「聴解力」19名、「文章読み取り能力」5名、「語彙力」11名、「日本文化への理解」5名、「日本社会への理解」10名、「敬語」8名、その他会社での言い回し、場による言葉使いと答え(複数回答可)、授業目的が達成されたことを裏付けた。「語彙力」に役立ったと答えた者は11名、「日本文化への理解」に役に立ったと答えた者は5名、「日本社会への理解」は10名で、日本の理解に役立ったとしていることで、この授業の目的のひとつである異文化理解にも効果があったことが確かめられた。また、授業で得たものは何でしょうかという質問には話し言葉、敬語の使い方、日常会話、日本文化への理解、日本語らしい日本語、流行語と答えた。台詞のスク립トを作成し文字化、難しく思っていた話し言葉や敬語の使い方等は映像の場面ごとによる言い回しを通して学ぶことができた。

4. 3. 今後の課題

授業の改善点として取り上げられたのは一つのドラマを観て学習するよりいろんな場面に遭遇することができる映画や各週違うドラマを鑑賞することを指摘された。今後日本の文化と日本語を学ぶために教材として観たいドラマ、映画はありますか(複数回答可)という質問には「ラスト・フレンズ」、「夏の雪」、「十四歳の母」、「一リットルの涙」、「大河ドラマ大奥」、「瑠黄島からの手紙」、「電車男」、アニメーションなどが上げられた。この中で「ラスト・フレンズ」は青春ドラマとして日本語学習者と年齢的に近いという所もあり、かなり人気もあったドラマで学習者の要望により今の若者の言葉と文化を学ぶ予定である。

授業の進み方の中に台詞のスク립トを読む練習がある。ただ読むだけではなく感情をいれあいづちやポーズという日本語の特徴をつかみ日常生活の中により自然なコミュニケーションができるよう指導が必要である。

5. おわりに

本稿は、筆者の勤務校である長崎外国語大学のNICS/JASIN留学生を対象におこなったドラマ教材による語学授業(2008年「日本語上級」)の報告である。

ドラマ教材は、聴解力・自然な会話理解力の養成および異文化理解の促進という面で効用のあることが確かめられた。とくに、日本社会のシステムや社内でのマナー、場面ごとによる言葉遣い、食堂でのメニューの注文など文化理解を深めさせるという点で、非常にドラマ教材は効能がある。これは語学の中に文化を味わい言葉の理解の深化をより求めた語学学習であると考えられる。

さらに、毎回配布する台詞スクリプトにはルビをつけ、日本人の姓名の読み方例えば東海林（しょうじ）、里中（さとなか）、桐島（きりしま）、一ツ木（ひとつぎ）というように日本語学習者が難しいと感じる名字の読み方まで記した。しかし、相手との関係や場面によって使い分けの差が激しい日本語を学習者はどのくらい認識し聞き分け使い分けしているのか疑問は残る。従って、今後は映画や演劇や青春ドラマなどを用い具体的に言語的要素、非言語的要素、音声的要素、その他の談話表現的要素を分け学習者が談話能力の向上を目指す授業を行いたい。

日本語上級に関するアンケート

日本語の経歴（ 年 ヶ月）国籍（ ）（男・女）年齢（ ）

(1) ドラマを教材に使った授業の感想を教えてください。

- ①とてもよかった 15 ②よかった 5 ③まあまあだった
④あまりよくなかった ⑤わるかった

(2) この授業は次の点で役に立ったと思いますか？○をつけてください。（複数可）

- ・聴解力（ヒアリング） 19 ・文章読み取り能力 5
・語彙能力 11 ・日本文化への理解 5
・日本社会への理解 10 ・敬語 8
・その他役に立ったと思われる点がありましたら具体的に書いて下さい。

漢字、会社での言い回し、場による言葉の使い方、

(3) この授業を受ける前と受けた後のあなたの日本語能力は伸びましたか？

- ①伸びた 14 ②伸びてない 2
③どちらともいえない 1 ④分からない 2（短い留学だったので1名）

(4) この授業で得たものはなんでしょう。書いてください。

聞き取り、文章力、語彙力、会社用語、話し言葉、敬語の使い方、日常会話、日本文化への理解、日本語らしい日本語、流行語、

(5) この授業の改善点があれば書いてください。

教材としてドラマよりは映画、

(6) 日本の文化・日本語を学ぶために教材として観たいドラマ・映画はありますか。（複数可）

ラスト・フレンズ、アニメーション、夏の雪、十四歳の母、一リットルの涙、料理仙姫、大河ドラマ、電車男、大奥、硫黄島からの手紙、ATO、風林火山、悪い奴ら、折翼の天使たち、先生に任せます

注

1

各話	放送日	サブタイトル	関東(NTV)	関西(YTV)	札幌(STV)
1	2007年1月10日	スーパー派遣登場!	18.2%	19.0%	27.0%
2	2007年1月17日	プライドとホッチキス	18.6%	19.3%	25.9%
3	2007年1月24日	社員の友情 ハケンの仁義	18.8%	19.6%	22.4%
4	2007年1月31日	恋とお時給	20.1%	20.6%	24.5%
5	2007年2月07日	お時給インベーダー VS ナマコ大先輩	18.6%	21.3%	24.2%
6	2007年2月14日	涙の残業バレンタイン	20.7%	23.5%	24.7%
7	2007年2月21日	企画コンペに恋は厳禁!	20.2%	22.0%	27.2%
8	2007年2月28日	派遣にプロポーズ!?	19.9%	20.6%	26.8%
9	2007年3月07日	スーパーハケンの過去	19.9%	21.2%	25.2%
最終回	2007年3月14日	契約終了!! スーパー派遣最後のスキル	26.0%	25.6%	26.3%
平均視聴率 20.1% (ビデオリサーチ・関東地区調べ)					

2

★ 単語

- ① 親孝行：親おやに孝行こうこうであること。
- ② 滞とどる：途中ちゆうでつかえて進まない。
- ③ 大安だいあん：吉日きちじつで、万事ばんじによしという日。
- ④ 積み：「自五」次第じごに高く重なる。たまる。つもる。
- ⑤ 身元みもと：身の上。
- ⑥ 手を出てす：女性じよせいと関係かんけいをつける
- ⑦ 色直いろなおし：結婚式けつこんしき後、披露宴ひろうえんで新婦しんぶが式服しきふくを別べつの衣服いふくに着替きえること。
- ⑧ 極端ごくたん：はなはだしくかたよっていること。
- ⑨ 拝借はいしゃく：借かりる事ことの謙讓語けんじょうご。
- ⑩ 直帰ちよつき：出先でさきから勤め先つとにもどらずそのまま帰宅きたくすること。★散々さんざん：ひどくみじめなさま。
- ⑪ 端はな：最初さいしよ。★噂うわさによる：世間よで根拠こんこもなくいいふらす話。★耳みみに入る：噂うわさや情報じほうなどが聞こえてくる。
- ⑫ 手放てばなす：持もっているものを自分じぶんの手許てもとから放はなす。
- ⑬ 登用とうよう：(官職くわんしやくなどに)人材じんざいを引き上げ用もちいること。
- ⑭ 縛しばる：縄なわなどでからめいませめる。

★言こといたい放題ばいだい：放題ばいだい：動詞どうしの連用形れんようけいや助動詞すけどうし「たい」などに添そえて、自由じゆうに存分ぞんぶんに行いう意いを表あらわす語。

「食くい放題ばいだい」

★空くわ気きを讀よむ：その場そのばの気き分ぶん。雰ふん圍ゐ気き。

参考文献

- 池田祐・池田智子 (1996) 「日本人の対話構造」『月刊言語』第 25 卷 1 号 pp.48-55.
- 大川英明 (2006) 「映画における文化要素と日本語教育」関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集 16 号
- 桑本裕二、宮本律子 (2006) 「背景知識の教授をめざした「日本事情」への映像使用」秋田大学 教養基礎教育研究年報 pp.61-68.
- 小矢野哲夫 (1996) 「テレビと若者ことば」『日本語学』(15) 9 月号 pp.36-45.
- 波田野節子 (1996) 「語学教材としての韓国映画とその利用例」『朝鮮語教育学』
- 菊地康人 (1997) 「変わりゆく「させていただく」」『月刊言語』第 26 卷 6 号 pp.40-47
- 熊谷智子 (2003) 「シナリオのある会話—ドラマの日本語の特徴—」『日本語学』第 22 卷 第 2 号 pp.6-14.
- 泉子・K・メイナード (2001) 『恋するふたりの「感情のことば」』くろしお出版
- 泰 秀美 (2002) 「日・韓における感謝の言語表現ストラテジーの一考察」(『日本語教育』114 号)
- ラドック、カレン (2002) 「聴解指導・文化学習のためのドラマ使用」『ヨーロッパ日本語教育』no.7,219-220.

yjs7437@hotmail.com